### parsejson

JSON文字列をパースします。

#### 構文

parsejson [cutoff=INT] [field=TARGET\_FIELD] [flatten=BOOL] [lenient=BOOL] [overlay=BOOL]

オプション

**cutoff=INT**

処理対象となる入力値の長さを制限するオプションです（flatten=fの場合のデフォルト値: 0、flatten=tの場合は5000）。

**field=TARGET\_FIELD**

パース対象となる値が格納されているフィールド名（デフォルト: line）。

**flatten=BOOL**

JSON内部のすべてのネスト項目および配列要素を展開し、個別フィールドとして出力するオプション（デフォルト: f）。

* t: ネストおよび配列項目を展開して表示
* f: ネストおよび配列項目をそのまま表示

**lenient=BOOL**

cutoffオプションや元データのエラー等によりJSONデータが途中で切れた場合、最後の項目を可能な限り復旧するか破棄するかを決定するオプション（デフォルト: f）。

* t: 最後の項目が切れている場合、復旧を試みる
* f: 復旧を試みない

**overlay=BOOL**

元データの出力方法を指定するオプション（デフォルト: f）。

* t: パースしたデータを各フィールドに出力し、元データは**line**フィールドに出力
* f: パースしたデータのみをフィールドに出力

#### 使用例

**line**フィールドのJSONテキストをパース

json "{line: ' {\"foo\": \"bar\"}'}" | parsejson

flattenオプションを使用してネストされたJSONテキストをパース

json "{'line':'{grandparent:{parent:{me:1, sibling:2}}}'}" | parsejson flatten=t | # 結果 | # {grandparent\_parent\_me:1, grandparent\_parent\_sibling:2}

flattenオプションを使用して配列JSONテキストをパース

json "{'line':'{x:[a,b,c]}'}" | parsejson flatten=t | # 結果 | # {x\_0:a, x\_1:b, x\_2:c}

cutoffおよびlenientオプションを利用したJSONテキストの制限と復旧

cutoffでJSON文字列を切り詰め、lenientオプションを使用しない場合は出力されません。

json "{'line':{company:'ログプレッソ'}}" | parsejson cutoff=12 | # 出力なし

cutoffでJSON文字列を切り詰め、lenient=tオプションを指定すると、可能な限り内容を復旧して出力します。

json "{'line':{company:'ログプレッソ'}}" | parsejson cutoff=12 lenient=t | # {"company":"ログプ"} 出力

入力データがJSON構文に合致せずパースに失敗した場合、元データがそのまま出力されます。この場合、flattenやlenientオプションで一部データを抽出することはできません。

* パース失敗例1) {apple::1,banana:2}（コロンが2回連続で出現する構文エラー）
* パース失敗例2) {apple]:1,banana:2}（括弧の対応が取れていない構文エラー）

cutoff、lenient、flattenオプションの組み合わせ利用

cutoff、lenient、flattenオプションの適用順序は以下の通りです。

最初にcutoffオプション値で入力データの長さを制限します。

切れた箇所の値はlenientオプション値により処理可否を決定します。

パースされたJSONデータの表示時にflattenオプションを適用します。

以下の入力データを例として使用します。

# 入力データ { Company:'ログプレッソ', Product: [ {name:'Sonar',type:'SIEM'}, {name:'Maestro',type:'SOAR'}, {name:'Sonar Light',type:'LMS'} ] }

* オプション指定なしでparsejsonコマンドを実行した場合
* flatten=tオプションを適用した実行結果
* cutoff=50、lenient=tを適用した結果
* flatten=t、cutoff=50、lenient=tを適用した結果

#### 互換性

flatten、cutoff、lenientオプションはバージョン4.0.2404.0以降で利用可能です。